

【授業科目】血液検査学 I

| 担当教員 | 開講年次 | 選択必修 | 単位数 | 時間数 | 授業形態 | 実務経験 | オフィスアワー | 教職員への授業公開 |
|------------------------|---|------|-----|------|------|--|---------|-----------|
| 鈴木 真紀子 | 1年次 後期 | 必修 | 2 | 30 | 講義 | あり | 巻末掲載 | 可 |
| 授業概要 (内容と進め方) | <p>血液検査学 I では、血液疾患領域を主として解説する。各血液疾患の病態を理解し、どのような検査を行えばその病態を把握できるのかを学生自身に考えさせる授業を展開する。血液疾患と医学検査との関わりを理解する能力を養うことにより診断・治療がどのように行われているか説明できるように講義したい。血液疾患を理解するためには、血液学の知識が重要となる。血液学で学んだ基礎知識を生かし、例えば赤血球の産生が低下したらどのようなことが起こり得るか、その時にどのような症状が出るかなどを考えることで、定着した理解を促したい。特に、疾患の起こるメカニズムについて、重点的に講義をする。類似疾患における鑑別点についても、疾患の起こるメカニズムを理解しながら考えを進めていく。臨床検査の場面では、類似疾患の鑑別が重要となる場面がある。臨床で起こり得る場面を想定して授業を進めていく。</p> <p>課題に対するフィードバック方法/各講義前の小テストは次回講義に返却及び、解説する。定期試験について総評コメントを掲示にて公開する。*実務経験を持つ教員が授業を進める。</p> | | | | | | | |
| 授業の位置づけ | <p>本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 (履修者が到達すべき目標) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 凝固線溶系の機序を理解する。 2. 出血性素因と血栓症について理解する。 3. 赤血球疾患について理解し、関連する臨床検査を習得する。 4. 白血球疾患について理解し、関連する臨床検査を習得する。 5. 白血病の分類を理解する。 | | | | | | | |
| 時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言 | <p>病気がみえる vol.5 及び、vol.6 を参考書として推薦する。血液疾患のメカニズムについて分かりやすく記載しているため、基礎を理解しながら興味深い病気のことを詳しく学ぶことができる。</p> <p>第1～15 回事前学習：指定の教科書を事前に読んでおく（2 時間）。</p> <p>第1～15 回事後学習：授業内容を復習する。要点をまとめておく（2 時間）。授業内容に準じた国家試験問題を解き復習することでより理解が深まる（2 時間）。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2 単位 1 5 回科目の場合：予習+復習 4 時間/1 回）（1 単位 1 5 回科目の場合：予習+復習 1 時間/1 回）（1 単位 8 回科目の場合：予習+復習 4 時間/1 回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p> | | | | | | | |
| 授業計画 | <p>第 1 回 血液凝固（2 次止血）の機序</p> <p>第 2 回 繊維素溶解（線溶）</p> <p>第 3 回 出血性素因とその検査法</p> <p>第 4 回 血栓症と抗血栓療法</p> <p>第 5 回 赤血球の基準範囲</p> <p>第 6 回 赤血球形態の異常</p> <p>第 7 回 貧血の定義と分類 小球性貧血</p> <p>第 8 回 正球性貧血</p> <p>第 9 回 大球性貧血と赤血球増加症（多血症）</p> <p>第 10 回 白血球の基準範囲と形態異常</p> <p>第 11 回 白血球機能異常症</p> <p>第 12 回 白血球増加症と減少症</p> <p>第 13 回 白血病について FAB 分類と WHO 分類</p> <p>第 14 回 様々な白血病と骨髄増殖性腫瘍</p> <p>第 15 回 骨髄異形成症候群、M 蛋白血症</p> | | | | | | 全て 鈴木 | |
| 評価方法 評価基準 | <p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 30% 前回授業の復習小テスト 70% 学期末試験 授業態度も加味する。</p> | | | | | | | |
| 教科書 | 臨床検査学講座 血液検査学 奈良信雄著 (医歯薬出版株式会社) | | | 参考書等 | | 病気がみえる vol.5、vol.6 血液、免疫・膠原病・感染症 (メディックメディア) | | |
| 学生へのメッセージ | <p>血液学の基礎を踏まえ、疾患について病態を学びます。臨床検査の実際の話も紹介しながら将来像を明確にできるよう講義します。</p> | | | | | | | |

